

群馬県議会 リベラル群馬

街頭演説1000日
県政の革命児!

県議会だより

後藤かつみ

vol.21

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
住所 高崎市八幡町800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com
http://www.ccrgoto.com/



昨年の本会議質問で公共交通を軸としたコンパクトシティへの転換を訴える。

後藤の本会議質問以降、 待望のビジョン策定

群馬県は市街地における人口密度が全国45位と、隣県(栃木・28位、茨城31位)と比べても著しく「薄く広い」都市構造となっており、「日本一のマイカー王国」と呼ばれる一因でもあります。

後藤は、昨年の本会議質問において、これから少子高齢化で税収も伸び悩む時代を迎える中で、①郊外に薄く拡がったインフラ(道路・下水道など)を整備・維持管理するコストがかさみ、財政に重い負担としてのしかかる。②公共交通と商店街や身近な小売業の衰退により、「買い物弱者(現状でも本県で11万人)」など高齢者の生活がおよびやかされる問題が深刻となる。③2点の問題を指摘し、まちづくりのあり方を根本から見直す必要があると訴えました。

人」など高齢者の生活がおよびやかされる問題が深刻となる。③2点の問題を指摘し、まちづくりのあり方を根本から見直す必要があると訴えました。

素案の内容も、これまでの過度の「マイカー依存」を反省し、公共施設や住宅地等の都市機能の拡散を抑え、公共交通利用へのシフトを進める「コンパクトシティ」の思想が貫かれています。この考えを基に、公共交通利用や街なか居住の促進策、駅などの周辺に都市機能を集約



富山市のまちづくりのあり方を視察。都市計画図をにらみながら議論。

公共交通を軸とした 政策転換機に期待

街中に都市機能集積 人口減、高齢化に対応
人口減少と少子高齢化社会に対応するため、県は効率的・集約的な都市計画構造(コンパクトシティ)への転換を図る。コンパクトなまちづくりの素案を初めて策定し、市町村と連携し街中の交通の減速、買入れの増加による家計への負担増も懸念される。県都市計画課は「このまま現況を放置した場合、高齢者の住みやすさや生活の質が低下する」と懸念を示している。街中の転居を促進するため、補助金など優遇措置を導入する。

コンパクトシティの考え方に對しては、「都市周辺部・農村地域を切り捨てるのか」といった根強い異論がありま。特に合併前の旧町村部からそのような指摘が予想されます。しかし、これは誤解で、むしろ昔ながらの地方のあり方を目指すものです。高崎市を例にとれば、榛名や倉瀬などの旧町村部もかつては役場等の周辺に商店街等の都市機能が集中し、住民に身近なところで経済活動が営まれていました。しかし、急速なマイカー社会の進展により遠く離れた大型店等で買い物を行うようになり、商店街や身近な小売店が衰退した結果、高齢者が「買い物弱者」となるという状況を招いています。これを克服し、かつての「賑わい」を取り戻すことで、高齢者にも優しいまちづくりを目指すことを明確に示すビジョンにしていくなければなりません。

まちづくり政策を大きく転換 県が「まちづくりビジョン」の素案を示す

根強い異論に的確に答えるビジョンが必要

6月16日
上新聞
より抜粋